

# トルコ為替週報

2022 年 3 月 1 日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

## <過去 1 週間の動き>

(2 月 22 日～2 月 28 日)

USD/TRY: 13.6900～14.6200

TRY/JPY: 7.78～8.37 (参照値)

過去 1 週間のトルコ・リラ相場は、24 日の乱高下を経て、底堅い推移を見せ、週を振り返って、結局、対ドルで小幅安、対円で横ばいに終わった。ウクライナで戦争が始まった事実を鑑みれば、この値動きは「驚くほどの安定」と見做すこともできただろう。22 日以降のリラ軟調推移の背景は、21 日の現地時間夜にロシアが、分離独立派(親ロシア派)勢力が実効支配するウクライナ東部二州を独立国として承認、ミンスク 2(停戦合意)を土台とした外交による紛争解決の目が途絶え、ロシアが「平和維持軍」を同域に派遣すると発表したことを嫌気した反応。それでも、英米の情報当局の主張とは裏腹に、戦闘は東部二州を中心としたウクライナ南東部に限定されるものとの見方が支配的であったはず。24 日の現地時間早暁、ロシア軍とウクライナ軍がウクライナ東部で交戦に突入、ほぼ同時に首都キエフ、西部の都市リヴィウなどに爆撃(ミサイル攻撃)が仕掛けられた経緯には相応の意外感があったはずで、その意外感を背景に、ロシア・ルーブルだけでなく、リラを含む新興市場通貨全般が急落した。市場ではトルコ国営銀行による、大規模(注 1)なリラ買い(実質的な為替介入)が観測されたが、リラ急落を食い止めることはできなかった。それでも、対ドルで、一時、14.6200 まで急落したリラは、同日中に 14.00 近辺まで急反発、翌日以降も 14.10 水準を安値に底堅い値動き、局地的な反発を続けた。28 日には、強めの予想を、小幅ながら上振れるトルコ第 4 四半期 GDP の発表を好感してか、リラは再び反発を見せ、頭書の通りの水準で引けた。

## <過去 1 週間に発表された主要経済指標等>

| 月日   | GMT  | 指標        | 期間  | 発表       | 予想*      | 前回      |
|------|------|-----------|-----|----------|----------|---------|
| 2/22 | 7:00 | 設備稼働率     | 2 月 | 76.6%    |          | 77.6%   |
| 2/28 | 7:00 | GDP(前年比)  | Q4  | +9.1%    | +9.0%    | +7.4%   |
|      | 7:00 | 貿易収支(USD) | 1 月 | -10.26bn | -10.40bn | -6.81bn |

(\*予想はブルームバーグ社予想中心値)

## <向こう 1 週間の見通し>

(3 月 1 日～3 月 7 日)

USD/TRY: 13.750～14.100

TRY/JPY: 8.15～8.35

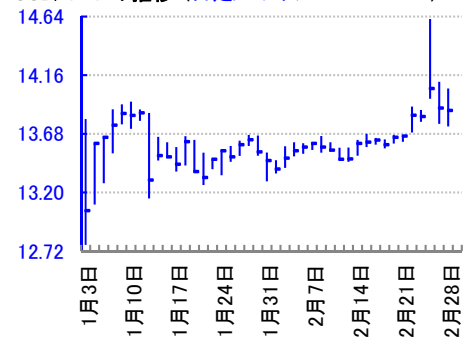
向こう 1 週間のトルコ・リラ相場は、軟調を予想。仮に値幅が出るなら、リラ安方向を警戒することになろう。24 日以降のリラ反発に、トルコ国立銀によるリラ買い(実質的な為替介入)の果たした役割は小さくはなかったはず。14.10 水準の不自然な底堅さは、25 日以降も介入が続けられていた可能性にもおわせる。リラ軟調を見込むのは、ひとつには、介入の原資となるべきトルコの外貨準備に不安が大きいから。昨年 8 月には、IMF による SDR の追加配分(63 億ドル)、この 1 月には UAE とのスワップ協定締結(49 億ドル)、アゼルバイジャン政府系ファンドによる 10 億ユーロ規模の預金(注 2)、加えて外債建国債発行などで、この間総外貨準備は補強されてきたものの、純外債(注 3)がマイナスである状態は変わらないはず。また、昨年 12 月には、公式に発表されただけで、5 営業日で 73 億ドルの為替介入が実施されている。トルコの外債が「底をつきかけている」可能性は十分に警戒されよう。また、外債の多寡を論ずる前に、そもその問題として、経常収支動向という目線でも、先行きには不安しか感じられない。同国経常収支は、リラ安による輸入減少などを反映し、昨年 8～10 月に 3 ヶ月間だけ黒字に転じたものの、その後のリラ暴落を受けても、赤字に逆戻りしている。28 日に発表されたトルコ 1 月貿易収支の大幅赤字を見ても、今後見込まれるロシアからの観光客(貴重な外貨収入)大幅減を考慮しても、目先の経常収支が黒字(外債がたまる方向)に転じる可能性よりは、赤字(外債をすり減らす方向)定着が長期化する可能性の方がはるかに高からう。なお、3 日発表のトルコ 2 月 CPI は、前年比+50%を超える水準への続伸が見込まれているものの、物価上振れにトルコ中銀利上げを警戒するような構図が潰えて久しく、数字の上下にかかわらず、リラが材料視する可能性は低からう。

## <向こう 1 週間に発表予定の主要経済指標等>

| 月日  | GMT  | 指標       | 期間  | 発表 | 予想*     | 前回      |
|-----|------|----------|-----|----|---------|---------|
| 3/3 | 7:00 | CPI(前年比) | 2 月 |    | +52.50% | +48.69% |

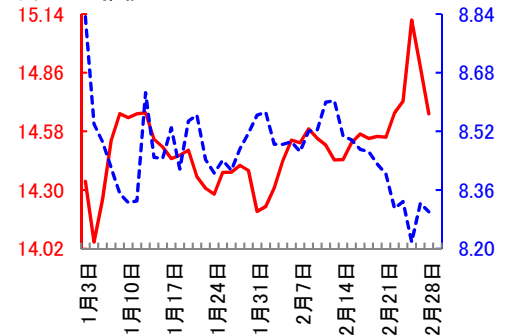
(\*予想はブルームバーグ社予想中心値)

## USD/TRY の推移 (日足/ロンドン 7:00～17:00)



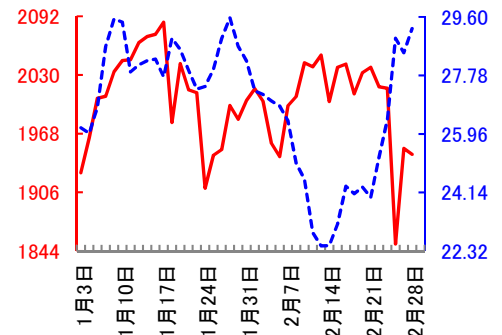
## バスケット/リラの推移 (トルコ中銀公示)

### リラ/円の推移 (ロンドン 17:00)



## 株式市場の推移 (ISE 100 種指数)

### 長期金利の推移 (5 年スワップ金利)



(資料: トルコ中銀/トムソンロイター/ブルームバーグ)

## トルコ関係主要経済指標

|              |      |          |
|--------------|------|----------|
| 1 週間物レボ金利    |      | 14.00%   |
| 成長率(GDP/前年比) | Q4   | +9.1%    |
| 失業率          | 12 月 | 11.2%    |
| 消費者物価(前年比)   | 1 月  | +48.69%  |
| 鉱工業生産(前年比)   | 12 月 | +14.4%   |
| 小売売上高(前年比)   | 12 月 | +15.5%   |
| 貿易収支(USD)    | 1 月  | -10.26bn |
| 経常収支(USD)    | 12 月 | -3.84bn  |

(注 1) 市場の一部で「20 億ドル」などと観測されたが、流動性の落ちた現在のリラ為替市場では巨額と言えよう

(注 2) トルコ中銀への

(注 3) トルコ地場銀行との為替フォワード取引による外債借り入れを除いた

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。